



かさま

No.478

横浜市立笠間小学校

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kasama/>

校長 黒田 由希子

心のふるさと 笠間小

梅の花が咲き始め、春の訪れを告げています。まだ寒い日もありますが、休み時間には子どもたちが校庭に出て、元気いっぱい遊んでいます。去年の今頃は、突然の休校が始まり、この先いったいどうなることかと思案にくれていたことを思い出し、子どもたちが学校にいる、そのことのありがたさを感じます。

6年生は卒業式まであとわずかとなりました。6年生にとって小学校生活最後となるこの一年は、今まで楽しみにしていたこと、普通にできていたことができなくなるなど、大変な思いをした年となってしまいました。しかし、この状況でも工夫しながら学校生活や行事を行い、6年生としての大切な思い出を少しでも残すことができたのではないかと思います。



小学校生活最後の運動会。組体操や騎馬戦はできませんでしたが、夏休み前から一生懸命に練習していた縄跳びの技を披露し、参観していた方からも感動の拍手をもらいました。縄跳びの練習にたくさん励んだのだと思います。日光宿泊体験学習では、マスクを取るときはしゃべらないという約束をしっかりと守り、日光の自然や歴史の重みにふれることができました。何より、友達と一緒に2日間を過ごしたことが大きな喜びだったようです。ドレミファコンサートでは、例年とは違いクラスでの「ふるさと」合唱となりました。「ふるさと」を歌い「音楽と私」の作文を発表する、笠間小学校6年生ならではのこのステージ風景が、子どもたちの心の中に宝物として残ってくれたらうれしい限りです。どの行事も、自分たちでどのようにしたらできるのかを考え、やるべきことを意識して行動した結果です。できないことも多くある中で、できることを模索し実行していくこと。この経験が、子どもたちの今後を生きる力となってくれたらと願います。

3月20日、6年生は、中学校への期待と希望を胸に笠間小学校を巣立っていきます。残念ながら卒業式も、これまでと同じようにはいきません。でも、その中で「できること」に最大限の気持ちを込めて式に臨んでいこうと心をつにしています。巣立っていく子どもたちにとって、笠間小学校や笠間のまちが、いつまでも「心のふるさと」であることを願っています。

保護者、地域の皆様には笠間小学校の教育にご理解、ご協力いただき、誠にありがとうございました。これからも「ふるさと」笠間で育つ子どもたちを温かく見守っていただければ幸いです。

